

★対話を仲介する用意を表明＝カリコム（カリブ共同体）の声明

1月25日

首脳たちは、カリブ海の隣国であるベネズエラ・ボリバル共和国の現在の遺憾な情勢を注視してきた。首脳たちは、ベネズエラ国民の窮状とますます不安定化する情勢に重大な懸念を表明した。この情勢は最近の出来事によってもたらされたもので、更なる暴力と法と秩序の崩壊につながり、人民をいっそう苦しめかねない。

首脳たちは、不干渉と国家問題への不介入、主権の尊重と法の支配、人権と民主主義の尊重の堅持という指導原則を再確認する。

積年の政治危機は、最近の事態で悪化した。これらは意味ある対話と外交を通じてのみ平和的に解決できると繰り返し強調する。それについて、深まる危機の解決のためすべての当事者の間での対話を促す場を提供することを提案した。

各国に武力の行使と威嚇を控えるよう求めた国連憲章第2条4項と領土不可侵にかんする米州機構（OAS）憲章21条を守る決議を再確認し、カリブ海諸国が平和地帯に残ることの重要性を強調する。

外部勢力が情勢を不安定化させるいかなる行為も控えるよう求めるとともに、水際から引き下がる必要を強調する。また内外の当事者が、ベネズエラ・ボリバル共和国の人民に損害を与えている爆発的な情勢をエスカレートさせ、広い地域にまで遠大な否定的結果をもたらす行動をさけるよう要求する。

首脳たちは、議長国セントクリストファー・ネイビスのティモシ・ハリス首相が国連事務総長と早急にあつて危機解決への国連の援助を求めることで合意した。

（以上）